

甲賀市戦没者追悼式 を開催



▲思いを込めて献花を行う参列者

甲賀市戦没者追悼式を8月31日、碧水ホールで開催しました。遺族や関係者など約300人が列席し、亡くなられた方々に追悼の誠を捧げるとともに、恒久平和への誓いを新たにしました。式では、中嶋市長が次のとおり追悼の言葉を捧げました。

私たちは、戦禍に倒れた皆様のお気持ちと、残されたご家族の苦悩を深く刻み、戦争という愚かな行為を決して受け入れない時代をしっかりと後の世につないでいく所存でございます。

与えられた命は、計り知れない可能性と希望を持ち合わせております。それ故に、市民一人ひとりが「生まれてよかった」「生きてよかった」と実感できる甲賀市でなければなりません。それは、私たちの大切な家族や子や孫の生命を守ることでもあるのです。

今年は、市制施行十年という大きな節目の年を迎えることができました。昭和の合併、平成の合併を経て、幾数十年が経とうとも、皆様の故郷は変わらなくこの地にあり、人の心を大切にする風土は不変であり続けるよう、必ずや市民が力を合わせて未来を切り拓いていく、その力があることをここにお願い申し上げます。(要旨)



▲追悼の言葉を捧げる中嶋市長

永遠の平和を願って

戦後69年が経過しました。

今日の平和と繁栄は、計り知れないほどの大きな尊い犠牲の上に成り立っていることを決して忘れてはなりません。

平和記念事業に参加して

黒こげのお弁当箱、八時十五分で止まった時計、三歳で亡くなった子どもとともにうめられた三輪車。たくさんのお品からそれぞれの人の思いを考えると、むねが苦しくなりました。原爆は、一発投下されただけでたくさんの方の命・生活をうばってしまい、原爆による放射線が病気になるまでずっと続いてしまっている。私の予想をはるかに超したこわい兵器だったのです。六十九年前に起きた現実がそこにはありません。見学を終えた後、私は混乱していました。あんなにおそろしい爆弾が開発され、投下され

なのです。

平和式典では、戦争中に敵だった国の方、原爆を落とした国の方までもが参加されていることに大変驚きました。自分の国に帰ったら、その国の人達に、原爆のむごさ、戦争のむごさ、つらさを伝えてほしいです。犠牲になるのは、いつも弱い立場の人達です。そんな戦争に何の意味もありません。この地球から戦争が無くなつてほしいと思います。

平和よ続け

私達、ほとんどの人が想像する戦争は、戦争というものの全てではありません。体験した人にしか分からない心のさけびがあると私は思います。だからこそ、体験者の方には平和の大切さ

平和の親善大使として

広島平和記念事業に 市内小学生28人が参加

8月5日、6日の両日、市主催の広島平和記念事業に市内小学6年生28人が参加し、広島平和記念式典への参列や平和学習に取り組みました。参加児童が、平和の親善大使として戦争の悲惨さや平和の尊さについて考え、感じたことを感想文(抜粋)から紹介します。

伝えてほしい戦争のむごさ

たった発の爆弾で、一しゅんの内に、何十万もの人達が亡くなりました。その後も原爆症などで、多くの方が今もお苦しんでおられます。原爆投下については、いろいろな意見があります。「戦争が早く終わった。」という考え方もあります。それも間違いではないかも知れません。しかし、あまりに無差別で戦争に関係のない普通の人達が犠牲になりました。それが戦争

が分かるのです。あんな残こなく悲劇はおきてほしくない、おきてはならないと思います。だから広島の人々は、八月六日に永久平和を願い、広島平和記念式典をしているのです。私も世界が平和になることを願っています。平和とは、世界中から戦争というものがなくなり、全ての人々が平等で毎日を笑顔で過ごせる事だと思います。私は、昔戦争があり、何万人ものとうとい命が犠牲になったということを受け入れて、罪もないのに亡くなった方々の分まで、一生懸命生きていきます。そして、平和な世界がずっと続いてほしいと思います。

時間を越え被爆

ピアノが語るメッセージ —矢川の杜の小さな音楽会—

被爆ピアノを囲んで、「矢川の杜の小さな音楽会」(あすばる甲賀実行委員会主催)が8月30日、甲南町の矢川神社で開催されました。この催しは、被爆ピアノを修理し、全国で平和コンサートを行っている広島市のピアノ調律師矢川光則さんが、同じ名前の矢川神社を知ったことをきっかけに実現したものです。岐阜県在住のピアノ奏者KYOKOさんの弾語りなどが行われ、参加者は、美しい音色に聞き入りながら、改めて平和について考えるきっかけとなりました。



▲被爆ピアノを弾きながら平和へのメッセージを届けるKYOKOさん

